

『北海道で考えていた事』

5月17日～20日まで、全国都市教育長会の研究大会があり、北海道帯広市に行ってきました。特色ある学校づくりを支援する教育委員会のあり方について発表を聞き、協議をしてきました。「コミュニティースクール」「小中一貫教育」「外国人児童生徒の日本語教育」「小学校高学年の教科担任制」などについて話し合いを深めました。文科省からの行政説明もありましたが、残念な事に中学校部活動の地域移行については「地域の実情に応じた取組を」というだけのことでした。特色ある学校づくり（キラリと光る教育）を推進するためには、総合的な学習が中核となることをあらためて確認しました。この出張全般で心に残った取組は、帯広市の『六中プラザ』でした。これはかつて中学校であった校舎に手すりやエレベーターを取り付け、社会福祉施設が同居できる施設にリニューアルされていました。教室が社会福祉施設のブースとなったり、社会教育の料理教室となったり、乳製品の販売所となったりしていました。この店賃で施設を運営していくという、合理的で費用対効果を考えた取組でした。障がい配慮した施設の造りに感激して帰ってきました。アイヌ民族博物館（ウポポイ）も訪ね、先住民族の文化や歴史に触れてきました。刺繍や生活道具、踊りや食物を見ると日本文化の多様性に気づくことができました。

五月の後半、外国にルーツをもつ子どもたちのために日本語教育に関する書籍を民間の会社に寄贈していただきました。たまたまこの会社では外国人で働く方が多く、家庭でも子どもさんの日本語教育に困っているということでプレゼントしていただきました。これらの書籍を積極的に活用してください。皆さんには身近な友人を通して、国際理解を図ってほしいと思います。外国にルーツをもつ友達が日本の生活のどの場面に困っているか。想像してほしい、よく観察してほしいと思います。津島市では国際交流協会の協力を得て『日本語教室 FUJICA』を開催しています。月に三回、日本語教育を行っています。外国にルーツをもつ子どもたちのために一肌脱いでみようと思われましたら、学習支援のボランティア活動に是非ご参加下さい。「情けは人の為ならず」人への思いやりは、すぐに自分自身に返ってくると思います。

小満や研究会に旅立つ日
綿毛飛ぶ北の大地の遅き春
ムックリは宇宙の調べ夏近し
旅立ちのスーツケースや栗の花

令和5年6月5日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視